

## 第3回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会 (柳川市教育の未来を考える会) 議事録

令和2年7月27日(月)に三橋庁舎3階第2・3・4会議室において、第3回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会(柳川市教育の未来を考える会)を開催しました。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりです。

### 1 開会及び閉会に関する事項

令和2年7月27日(月)

開会 午後3時00分

閉会 午後5時05分

### 2 出席委員の氏名

委員長	森 保之	委員
副委員長	横地 景子	委員
委員	橋本 憲之	委員
委員	今村 智子	委員
委員	中川 辰藏	委員
委員	乗富 昇	委員
委員	黒田 忠記	委員
委員	西田 親廣	委員
委員	菊次 晃一	委員
委員	成清 太郎	委員
委員	小森 喬介	委員
委員	石川 未来	委員
委員	大淵 教志	委員
委員	橋本 秀博	委員
委員	酒見 哲	委員
委員	古賀 敬一	委員

### 3 欠席委員の氏名

委員	高田千壽輝	委員
委員	五十嵐 勉	委員

### 4 事務局の出席者

教育部長	袖崎 朋洋
首席指導官	野田 真功
主任指導主事	野中 裕二

学校教育課長	古賀 洋
学校教育課長補佐	藤吉 康裕
学校教育課総務係長	荒巻 良二

5 傍聴者  
1人

6 議事の概要

事務局	<p>みなさんこんにちは。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、只今より第3回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会（柳川市教育の未来を考える会）を始めさせていただきます。まず、報告ですけれども、高田委員、五十嵐委員につきまして、欠席の連絡が入っておりますので報告いたします。それでは、会議につきましては、お配りしております式次第に従いまして進めさせていただきます。はじめに次第2 委員長あいさつでございます。森委員長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
委員長	<p>みなさんこんにちは。本日は第3回ということで、非常に忙しい時期だと思いますが、事務局がたくさんの資料を用意していますので、しっかり会議ができればと思います。ご協力をお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして、早速、次第3 議事に入らせていただきます。それでは、議事の進行につきましては、森委員長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>予定としては、今日が第3回で第5回ぐらいをめどに進めていくことになっておりましたが、今後のスケジュールをもう一回確認したいということですので、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
委員長	<p>前回口頭で説明されたことを明文化したということだと思いますが、今日が適正規模等々を中心にやり、次回が適正配置について考える。残りの第5回、第6回で最終的に柳川市の教育の未来を考えるという流れでございます。何か質問、意見がありましたらどうぞ。（質問、意見なし）</p> <p>確認をしたいと思います。こういう流れでよろしいですか。（了承）</p> <p>次は、前回の検討委員会での意見に対する追加資料ということで、資料を準備していただいておりますので、その説明を事務局からお願いします。</p>

事務局	(説明)
委員長	<p>ありがとうございます。第1回、第2回の検討委員会でもご意見等が出されたと思いますが、それに合わせた資料でございます。最初の特別支援関係ですが、資料9の一番下に書いてありますが、通級指導教室のやり方は二つあると思います。藤吉小に通級指導教室がありますが、そこに子ども達が来るというやり方ですか。それとも通級指導担当がそれぞれの学校に行き行ってやるという通級指導のタイプのどちらですか。</p>
事務局	<p>藤吉小学校に教室を確保しておりまして、保護者がお子様を連れてきていただくやり方をやっています。</p>
委員長	<p>分かりました。現在はこういうことです。これは柳川市に限らず、私が知り得ている限りでは、福岡県はどこでもこのように特別支援学級、増えてきています。これは特別支援関係の教育の充実というか、非常に進んできているという証かもしれません。柳川市は4年間で16学級増えているということで、今後さらに増えていく可能性は多分にあります。他にありませんか。</p>
委員	<p>資料10の3番目の項目、令和2年度の配置状況についてですが、配置要望は小学校43人、中学校12人ということになっています。予算はしょうがなく2人つかなかったということかもしれませんが、最終的な配置人数が小学校3人、中学校2人足りないというのは、下に書いてありますが、支援員の人材不足の状態ということですが、これは応募が少ないということですか。こうやって足りていない状態であれば、やむを得ず足りない状況のまま運営をされているということですか。</p>
事務局	<p>支援員は特別支援教育にある程度理解をいただいて、熱意のある方でないと務まらない仕事であります。今年度はまとめて面接をして採用させていただきましたが、定員ぎりぎりぐらいの応募の中で、中には採用できない人もいらっしゃいました。また、任用していても途中で辞めたいとおっしゃる方もいらっしゃって、なかなか人材不足が解消できない現状がございます。こちらといたしましては、教職員のOBの方、あるいは支援員の方から紹介をいただくなど、そういった手を使いながら確保に努めておりますが、枠が埋まらないという現状でございます。これは何とか解消に向けて事務局で努力をさせていただきたいと思っております。運営につきましては、学校の中で教職員のカバー等々でやっている状態なので、学校としては、ぜひ人手がほしいという中で対応している状況でございます。</p>
委員長	<p>特別支援関係はよろしいですか。もう一つのコミュニティスクール関係はいかがでしょうか。計画としては今年度までで、すべての小中学校が運営協議会を設置すると</p>

委員	<p>いうことで進んでいる状況であるということですね。もちろんこれからこれを軌道にのせていきたいということです。これは特に今回の学校適正規模、配置にものすごく関係あることですので、何かお尋ねしたいこととかありますでしょうか。</p> <p>学校運営協議会についてですが、広川町は規定がゆるくなりましたので、中学校区でやっていいということになりました。広川町は中学校1校と小学校3校で、同じ委員さんたちが、小学校も中学校も全部見ながら、建設的な意見とか生きがいとか目標なんかの形をとっています。柳川市は、それぞれの小学校、中学校でされていますが、構成メンバーはどんな方で、何名程度でやられているかということと、年間どれくらいの割合で、どういう内容のものをされているのかということをお尋ねしたい。</p>
委員	<p>城内校区ですが、城内小学校のコミュニティスクールは3回の運営委員会で勉強会を実施しました。どういうメンバーにしているかということですが、参考としてうちの方は、小学校の校長、教頭、主幹教諭、事務の方、行政区長、公民館長、校区民会議の会長、元小中学校父母教師会会長が4名と現役の父母教師会の会長、城内子ども会育成会長、城内小学校の学校医の先生、元中学校長先生と元小学校校長先生の計17名で運営しながらやってきました。第2回の時に福岡教育大学の理科教育講座の教授の方をお招きして、城内小学校の体育館で19時から20時30分まで、希望の保護者に集まってもらって勉強会を実施しました。その時は80名から90名の参加者があったと記憶しております。そういう勉強会を2回目の時にやって、3回目は17名の運営委員で方針を決定していくという考え方で、校長がリーダーシップをとって、地域の人達もいろいろな勉強会をやって、城内小学校の子ども達をどういうふうに地域連携して、このコミュニティスクールの趣旨に沿って育てていくかというようなことをやっております。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。基本的には、メンバーは学校関係、地域、保護者の代表者が出席します。それ以外に公民館のお世話をしてくださった方、学校、家庭、地域の3者の声を反映させ、その声を基にしながら学校運営を進めていくということだと思います。コミュニティスクールというのは、資料2ページに書いてあるように、学校と地域が一体となって子どもを育むシステムでございます。コミュニティスクールをすべての学校で作ってもいいし、29年度の改正で、中学校校区レベルで学校区(学園)運営協議会をつくっているところもあります。柳川市の考え方は、各学校の運営協議会を基本として必要に応じて、中学校校区の合同運営協議会をするという考え方で進められているようです。</p>
委員	<p>関連ですが、校区まちづくりというのも平行して進んでおります。それとオーバーラップするところが非常にある。だからその辺の兼ね合いをどうするか、我々もどっ</p>

<p>副委員長</p>	<p>ちの方に重きを置いて進めるかというのをちょっと今のところ迷っているのが実情です。</p> <p>果たしてこれでいいのかなって、ずっと考え続けていることがあります。それは何かというと、コミュニティスクールとてもいいと思います。そして、地域と学校が一体となって子どもの教育を育む。学校運営に保護者、地域の方もいろんな意見を言えて、それを学校運営に反映させられるシステムと思いますが、一体誰のためにするのか、これは学校のためにするのではなく、やっぱり子どもが主体だと思うんです。今子どもの姿が本当に最近これは問題があるぞという気がしています。主体的に物を考えて、自分で考えられる子どもになりましょうというような子どものあるべき姿というのがあって、それに向かってどうしたらいいか、地域も親も学校も一緒になってやるわけですが、一体それが本当に子どものためになっているのかと考えた時に、あるべき姿が大人が思うあるべき姿であって、こんなになりなさい、こういうふうには挨拶をしなさい、こういうふうにしなさいと言われて、果たして子どもが主体的にやれるかどうかということを今すごく考えています。果たしてこのまま体制を作っていて、こういう子どもを作りましょうと主役の子どもが置き去りにされていないかなと、今後柳川市として、どういうまちづくりをして、その中にしっかり子どもがいて、主体的にものを考え、そして他者とも協力しあって、自分で社会の問題解決をしていける人に育つために、生きる力を育むためには、ちょっとこれでは落ちているのではないかなという気がしています。ここに一言も子どもが参画していないんです。特に中学生は言いたい事があるんじゃないかな、言える子がどのくらいいるかなと思うんです。こうしなさい、ああしなさい、これがいい姿と言われて育ってきて、答えが一つしかなかったら、自分で考えるのをやめているような気さえしています。だから今からつくるまちづくり、子どもの育ちを支援するならば、ぜひ主体は子ども、子どものために、子どもの育ちのためにという文言が一つでも入っていてほしいなと思うし、できれば中学生の意見も入れてほしい。こうやって自分達のことを考えてくれているんだというような、全体で考えていくようなのがほしいなと思うし、決してあるべき姿は一つではない、多様性だと思って、それを認め合うようなこれからじゃないと、子どもにちゃんと教えることすら難しくなっている時代に、いろんな多様な考えに、その時その時でちゃんと考えられるというのを大人の姿でも示していくべきじゃないかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。私もこれまで10年以上コミュニティスクールを進めてきていますが、最近では、生徒たちの声をしっかり反映させていこうという願いも有り、学校、家庭、地域、生徒という四輪駆動で進めている地域も増えてきています。柳川市でもその辺りは理解をさせていただいておりますし、中学校の生徒達も制度上運営協議会委員にはなれませんが、学校、家庭、地域、生徒の声を反映するということで、</p>

	<p>生徒が運営協議会に特別出演で出てというのは全国かなり広がって、柳川市も試行的に進めておられると聞いています。とっても大切なご意見だと思います。子ども達のために、子どもの主体性をどう育むかということを大人側が熟議をすることもかなり今出ていると思いますので、それに向かって、今柳川市はコミュニティスクールも動き出しているところで、まだ資料で出ているように立ち上がったばかりのところもあるし、柳河小とか垂見小などはもう3年ぐらいたっていますから、そういうところの声を聞くと、今のような声は運営協議会委員さんからかなり出ていますという声も聞いています。非常に大事な視点だということで共通理解をしたいと思います。それからもう一つ、先程まちづくりという話が出ましたが、それにどうしても関わることが、1ページの一番下に書いてある地域学校協働本部なんです。要するに学校協働活動推進事業とありますが、これがまちづくりに反映するんであって、コミュニティスクールというのはどっちかという学校のがんばり、それを中心にもう一つの軸がここに書いてある学校協働活動推進事業です。柳川市は地域学校協働本部の設置の状況はどうなっていますか。これがものすごくまちづくりの本来の目的を持っている会議ですから、もちろんコミュニティスクールと両輪になって、まちづくりに向かっていくということですが、私が把握しているのは、小学校校区単位でコミュニティセンターがあるということだけは聞いていますが、この辺りの進捗状況はどうですか。</p> <p>事務局</p> <p>生涯学習課で担当しているものですが、先生からお話がありました学校協働活動推進事業に基づく協働本部は、コミュニティスクールを立ち上げまして、その翌年度に立ち上げるという方針でやっております、現在のところその通りに動いているという状況でございます。</p> <p>委員長</p> <p>運営協議会と地域学校協働本部が両輪になって子どもを育てていく、それがつまりまちづくりというスタンスで、国の考え方と一緒にですね。分かりました。それではあともありますから、とりあえず現状をご理解していただくということによろしいですか。（了承）</p> <p>それでは次にいきたいと思います。次が（3）ですね。資料12でございます。これは私から説明します。資料12をお開きください。みなさんご承知のように、第1回目、第2回目でもいろんな声が出たと思いますが、最初に出たのが、24年に一度作っているのをこれを大事にしないといけないという声が出ていました。私ももっともだと思います。それからもう一つ資料12の一番上に書いていますが、柳川市に限らず、全国でもかなり適正規模、配置に関する課題が広がっています。そういう求めもありまして、平成27年1月に国から手引きが出ています。そこに書いています参考引用文献ということで、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けての手引きであります。その二つを基にしながら、第1回目、第2回目でみなさんからいろいろ出させていただいたものを整理したのが資料12ということでご理解ください。それか</p>
--	--

	<p>ら、前回ある校長先生からも小規模校のメリット・デメリット、この辺りももう1回整理しなくていいかというような声も出ていましたので、勝手ながら整理したということでご理解ください。私の考えも少し書いていますが、基本的には手引きと24年にここで作られたものの考えを踏襲したものでございますので、共有するというごことでご理解ください。簡単に説明したいと思います。</p> <p>(説明)</p> <p>前回メリット・デメリットを整理した方がいいという意見もあったので、何かその辺りで付け加えとかあれば出していただければありがたいなと思います。最終的には、情報提供ですから柳川のこれからの学校を考える時の一つの材料になります。使っていただければと思います。よろしいですか。</p> <p>質問があります。小規模によるメリット、デメリットについてですが、人数等とかが平成24年の柳川市検討委員会では、小学校が1クラス30人以内、中学校が1学級の人数が35人以内でというお話があったと思います。その中でもいろいろメリット・デメリットがあると思いますが、今コロナが発生しておりまして、状況がだいぶ変わってきているのではないかと感じております。そこで、ぜひ現場の先生方のお声をお伺いしたいのと、保護者の方からのお話も伺えたらと思っていますが。</p> <p>ありがとうございます。私がとばしたところですが、資料4ページの真ん中のちょっと下を見てください。実は国の手引きにはこんなふうに書いています。一口に単学級と言っても、学級の児童生徒数が10人にも満たない場合から40人の場合まで様々なんです。ですから、一般に学級規模が小さいと、きめ細かな指導がしやすくなる、それから様々な活動のリーダーを務める機会が増えるというメリットはありますが、課題もこんなにあります。24年の時には、小学校は30人以内、中学校は35人以内でということまでまとまっていますが、それを踏まえて現場の方の声を聞きたいということです。まずは校長先生方がいかがでしょうか。</p> <p>どう答えていいのかわからないですが、本校のことを申し上げますと、2年生が1学級27名、3年生は37名になりますが、いろいろな3密を避けるという話が出ています。2年生は教員との距離がある程度十分とれて空間を作った中で授業ができます。ところが3年生は人数が10人多いので、そのような距離は取れない中で授業をしているのが現状です。3年生になると特に体も大きいですし、3年生37名が教室の中に入りますと、なかなか机の間を先生が移動していくことも難しい状況で、いろんな条件から机と机の間も狭くなっているというのが現状です。</p>
委員	
委員長	
委員	

委員長	<p>小学校はどうか。</p>
委員	<p>本校のことを申し上げますと、2年生、3年生、5年生、この3学年が30人を超えています。このコロナ禍において、いかに3密を避けるかというのは喫緊の課題で、常に配慮を要してまいりました。その場合に、学校によってはオープンスペースとかそういう場所があるところもあると思いますが、本校もそういったところがないとは言いません。5年生は広いランチルームを教室がわりに使っているところです。さらには、2年生、3年生は学習集団を2つないし3つに分けて、そこに主幹教諭や教頭が入って学級担任と共に同じ授業を展開していく。もしくは、違う教科をやりながら、次の時間に入れ替えてまたやるとかいう工夫改善をやっているんですが、どうしても人手が足りません。そういった苦勞は見えています。ですから次の資料にあがっていますが、小規模校と言っても実は小学校、私はできるなら25人以下ぐらいが、担任一人でも個に応じた対応ができるのは、もうそのぐらいが限度になりつつあるなと特に思っています。配慮を要する児童も多ございます。そういった中で本当にありがたくて、支援員を足りてはいませんがうちも4名いただいています。それでも学校はまわっていないのが現状です。そういったところを考えた時に、はたしてこのコロナ禍において、本当は小規模がいいんじゃないかとかいうご意見もあるかと思いますが、校長としての考えは、この間も言ったように人事的な配置が一番だと思います。19校あると単純に1クラスあったとしても校長、教頭も含めて、19校かける6学年の先生がいるわけです。そこにはやはりどうしてもいろんな課題を抱える先生や授業力にも差があるんです。そういった時に、カバーリングができるのは、せめて2学級か3学級ある方が、そういった意味では非常にメリットが大きい。私は校長としてそう考えるし、もう一つは非常に言いにくいことですが、19校の校長、教頭がはたして経営というもの、学校運営というものが円滑にできているかといふとかなり厳しい場合もあります。そういった時にそこを考えると、人事的にはできるだけ淘汰されていった方がよいのではないかなという、ちょっと早合点なところもありますが、ただ、コロナ禍においては、今申し上げましたようにできるだけ3密を避ける工夫を余儀なくされているのが現状でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。PTAの方から何かありますか。</p>
委員	<p>小学校と中学校区別の推計を見てもらうと分かるように、M中学校は今柳川市の小中学校の中で一番多い状況です。それで1年生の入学式も柳川市は6月、7月に行われましたが、M中学校は8月に行う予定にしております。それは保護者が来たら300人からなるので、第2波がくるかもしれないが、ちょっと落ち着いてからと校長先生と話していたら、こういう状態になったので、どうするかを話し合わないといけないような感じです。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。他にこれに関してご意見とかありませんか。</p>
委員	<p>関連ですが、資料12の1ページの1番基本的な考え方の中で、中程にアンダーラインをしてあるその下です。一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいということが書いてあります。これが基本的なことだと思いますが、そういう適正規模、適正配置になった場合に、資料10で質問が出たような支援員の配置事業についてでも不足するような事態にならないようにしとかなないと整合性がとれないようになっていかないかないかなという心配があります。先程小学校の校長先生からお話がありましたように、要は適正規模、適正配置ができて、それに伴う人員が揃わなければ適正規模、適正配置は成り立たないと思います。メンバーを揃えてはじめて適正規模、適正配置ができていく。そういうものがないと先に進まないんじゃないかなと思いますので、人員不足で適任者がいませんということがないように、これを進めていく時には平行してやっていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。そしたら、今日の意見として確認したいのは、24年の時には、1学級小学校30人以内、中学校は35人以内ということで出してありますが、今ご意見を聞きますと二つの理由で、一つはこのコロナ禍の時代ということが一つと、もう一つは先程特別支援教育でも出ましたが、学級には配慮を要する子ども達がどんどん増えています。そういう対応を考えますと、小学校は25名ぐらいという声が出ていました。中学校は30人以内という声が出ました。決定ではありませんが、そういう声が出ていましたので、記録としてあげておいてください。こういうコロナ禍の時代、それから特別支援を要する子ども達の指導の充実とかそういうことを考えますと、25人以下ぐらいでないといけないという意見が出されました。そうすると学級数も増えますから、そこには人材確保という課題はありますが、貴重なご意見だと思います。</p>
委員	<p>望ましいのはやっぱり30人弱、どうしてもそれぐらいがちょうどいいと思います。今の制度では40人。弾力的に1年生とかは40名きってもそうしたクラスにできますよということで学校はやっていますが、制度が40名という中でどうしていくか。広川町のN小学校は、4年生120名、1クラス40人です。他の学年も36、37、38人とか、制度上1年生が28人ぐらいでやっているという状況です。その中で学校は本当に工夫しています。中学校とかぎりぎりのところで何とかやっているんです。そこがある程度弾力的になって、30人きるぐらいの人数がほしいと私達も要求するなど、今の時代はそうだろうと思うんです。そこをどうしていくかというのをやっぱり働きかけていかなるときついかないかと思いました。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。今のも市全体で考えないといけないことだと思います。ある市では、例えば6年生は国では先程言ったように40人学級であります。市として35人学級にしますと市で決めているところもあります。それから国が今のようになりぎりぎりになったら、少人数指導ではなくて、少人数学級という形で、先生を入れることは現実できます。ただそうすると担外がいなくなるという課題はあります。それは国の法として決まっていることです。ただ市町村で今のようにもっときめ細かな指導ということで、独自の体制などは組めないことはないですが、当然そこには人材がいます。そこは考えていただきたいと思いますが、とりあえず現状としては、配慮を要する子ども達がどんどん増えてきているという状況も含めると、5人ずつぐらい人数が少ない方がいいのではないかという意見が出たというところでここはまとめたいと思います。いいですか。（了承）</p> <p>あとは先程スケジュールでおっしゃったように、今回は適正規模に関する情報提供でございますから、事務局から説明をしていただきたいと思います。資料13からです。よろしくお願いします。</p>
事務局	(説明)
委員長	<p>ありがとうございます。それではここで15分ぐらい時間をとりたいと思いますので、今から近くの人とお話してください。はいどうぞ。</p> <p>(近くの人とお話)</p>
委員長	<p>せっかくですから、まだ言っていない方は一言ぐらい発言しましょうね。あと質問などがあったら出してくれませんか。</p>
委員	<p>結局、複式学級の議題がここに出てくるということは合併するという前提のもとにすると話がよく分かりますが、複式学級だけの話ならですね。この会議の趣旨から見て、これがあるから合併に持っていけないといけません。そういう議論に持っていくと、複式学級のいろいろな弊害もあるから、合併して適正にということを持っていくんじゃないか。そういう議論のあり方が一番だと思いますがどうですか。</p>
委員長	<p>資料3ページ、小学校を見ますと、令和12年になるとN小学校が複式になる可能性があります。そうすると再編というふうに考えるということですね。それも一つの考え方ですね。</p>
委員	<p>今、区長が言われたことはごもっともな意見だなと非常によく分かります。そして</p>

<p>委員長</p>	<p>私が一番思うのは複式学級について、実際現場で複式学級をされた先生はいらっしゃいますか。ここにメリット、デメリットを挙げてありますが、本当にメリットがあるかどうかをお聞きしたいです。</p> <p>複式学級について、資料15を見ながら現場の生の声をどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>これは人数が少ないから仕方なくやっているんです。教室を半分に仕切って、黒板が後ろと前にあって、先生が行ったり来たりして授業をしているわけです。ずらしかわたりとかあります。こちらでめあてを作る時には、向こうは作業をするわけです。ずらしているわけです。そして、先生は向こうにわたっていくわけです。1年生は自習をさせて、2年生を教える。そして、2年生でこうしとかないかんよといって、今度は1年生のところで書いて教えるという、ずらしてわたってという授業をされています。ただ、学級の中に1人2人しかいないので、やっぱり目が届きます。例えば2年生3人、1年生が1人ということですから、わりながらも他の時にはちゃんと先生がフォローできていくということになります。ただし、活動している時にはよく見られないという欠点があります。1クラスでやる時には回りながらチェックできるんですが、活動をさせて、他の学年で先生が話して教えているという授業ですから、それができない。先生達は工夫して、自分で学習するような仕組みを作られている。主体的にと言いますか、課題を見つけて自分達で学習するという力は付いていくと思います。ただし、私がF小学校に勤めていて校長をしている時、N小学校は児童数が少なかったです。中学校になるとキュッとまりました。それでN小学校の6年生が何日間かF小学校に行き、そこで一緒に学習させて、社会性を育てるという取り組みをしていました。小さい所はきめ細かにできるんですが、大きな人数になった時、その萎縮性とかそういったところがきついかないと感じておりました。ただ、自主的にシステムを作って、自分達で学ぶという力は付いていると思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>ここに書いてあるメリットは、そうせざるを得ないとお捉えになった方がいいと思います。たった一人とか二人しかいないんですから、記録が取りやすいのは当たり前前の事であり、目が届くのも当たり前前の事であり、それができなければ教師ではないので、要は知・徳・体の総合的な調和のとれた子どもの育成ができるかというところを考えていかないといけないと思います。それと先程、M先生がご説明になった協働的な学習が求められています。いわゆる生きる力という何回もお聞きになられたと思いますが、自分で主体的、対話的で深い学びというのが今求められています。そういった状況の中で、ごく少人数の子どもとの関わりや先生との関わりで、はたしてそれが育まれていくのかというところは、ゼロとは言えませんが、これだけいろんな考えがひっきりなしに起こっていき、社会の状況の中で生き抜いていかないといけない。やはり、いろんな他者との関わりの中で育つ社会性とか、認知的能力とか、そういった</p>

	<p>コミュニケーション能力とか、そういったものを育むために、はたしてそれでいいのかなというところは大きな課題であります。私も何回も言いましたが、よっぽど先生に力がなかったら、子どもにはそれだけの学力とか、総合的な人間が育まれるのかというのは皆無ではないのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。例えば、私も複式には今でも指導に行きますが、今どうしているかという、複式を解くために教務主任という担外を学級担任にする。担外の先生に担任をさせる。つまり学校は複式をしたくない。それが一つ。もう一つは特認校にして校区外の子どもが来るとい、近隣で言ったら福津市のあるところはそれで成功しています。校区の子どもよりも特認で校区外の子どもの方が多い。それで複式を解消しています。だから結論から言うと、学校現場は複式をしたがらない。カリキュラムが毎年変わります。実際私も関わりましたが、相当先生は努力をされます。でも限界があります。一応複式学級についてはそういうことです。他にありませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>今のお話をお聞きして、ここに学校名も出ているように、もう20年後、30年後は人数的に複式学級になります。そうした場合、合併する条件として、これを基に保護者や地域を納得させる。説得ではないです。納得させる力がこの中にあると思います。複式学級になると、こういうデメリット、絶対合併しないといけないという納得させる力が私はこの中に基本的にあると思います。これをいかに解釈して、いかにみんなに浸透させるかということが、私は一番重要なことではないかと考えます。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。そういう意味で今事務局は大変だったと思います。貴重な資料を出してもらっています。いろんなところから意見を出してください。私から1ついいですか。3ページの資料ですが、10年単位で区切ってあります。令和2年、令和12年、令和22年なんです。例えば、N小学校が令和12年、複式と書いてありますが、令和12年になるということですか。例えば、令和5年、6年、7年発生とか、いつ頃から始まっていくのか知りたい。10年単位で区切ってあるので、そこら辺はどうなっていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>推計では、令和7年度から複式学級が始まります。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういうことだそうです。他にありませんか。だいたい状況はつかめましたね。中学校の資料、4ページを見てください。僕が心配していたのが中学校ですが、6学級というのがずっと横ばいなんです。6学級より減ったら大変なことになるので心配したが、中学校は結構減らないですね。</p>
<p>委員</p>	<p>この数字だけを見れば、これを信じるしかないとは思いますが、Y中学校平成15</p>

	<p>年は600人いた生徒が、今300人を切っています。15年で300人切ったのに、10年たって、20年たってあまり変わっていないのが自分の中では、よく分からないなと思っているところです。あとは、私学への流出とかその辺の問題も出てくるのかなということで、単純に人口、生徒数だけでいかないのかなと思っているところです。ただ、学級数だけを考えると、いわゆる80人を切らなければ、2クラスにならないので、その辺ちょっとは余裕があるのかなと思いますが、ただ難しいです。判断ができない状況です。</p>
<p>委員長</p>	<p>今4ページ、5ページを見てあると思いますが、5ページは中学校の一番上が、6学級だったら専門の教科が最低1人ずつは確保できますよということですね。それでは厳しいだろうということで、2番目に書いてあるのが、国語、社会、数学、理科、体育、英語は2人配置できますよという感じで見ていただければいいかなと思います。せっかくのいい機会ですので、みなさんありませんか。適正規模の貴重な資料になりますので、一応この事実を理解できたということでもいいですか。（了承）</p>
<p>事務局</p>	<p>複式学級の方だけに話がいつてしまいましたが、議論の中でもう一つ話をさせていただきたいのがありまして、小学校のクラス替えができるかできないかという規模の話も議論を深めていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>よく話題になりますよね。その辺り小学校の先生、どうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>少し私見も挟むかもしれませんが、私はクラス替えがあった方がいいと思います。人間関係の固定化とはよく言われますが、人間関係づくりすら希薄化していて、そういった中で、先程から申し上げますように、いろんな子どもとやっぱり関わっていくことが子どもの成長にとっても大切であります。そういったことを考えると、私はクラス替えができる、それだけのクラス数はほしいなと思います。それと直接的に関わらないですが、資料14の一番上の小学校の資料で定数が書いてありますが、みなさん、例えばうちは11学級ですから12人の先生がいるからいいじゃないかと思われになるかもしれませんが、とても厳しいです。結局担外は先程からでている主幹教諭1名が配置されているだけです。それに要望をして、指導方法工夫改善が本校2名付けていただいている状況です。そういったことをやって、いわゆる算数を少人数でやる先生を担任にまわしているような状況です。それともう一つはご存じだと思いますが、小学校は中学校と違ってまったく空く時間がありません。6年生のその担任は6時間かける5日間、30時間全部1人です。うちは専科を付けていますから、それでも27、8時間で朝おはようございますから、帰りのさようならまで、下手すると1回も教室から降りてこられないような状況もあり得る。そういったことを考えるとできるだけ学級数が多くて、プラス<math>\alpha</math>がある方が、学校としてもシステムはまわりや</p>

委員	<p>すいのかなと思うところです。</p> <p>私も小学校の教員をしておりましたし、校長をしておりましたので、例えば単学級は保育園からずっと人間関係が固定してしまいます。ずっと中学校まで、もうこの子はこうと決めつけられてしまいます。クラス替えがあると、また新しい友達を作ることができて、そこで子ども達は新しい芽を見つけて伸びていくことができると思います。学校を経営する場合も、やっぱり2クラスあると担任がこうだよと言って相談しながら、その学年の子ども達と一緒に育てることができるわけですね。同じ学年の先輩先生に尋ねたりしながら力を付けていく。一人の場合には、本当に若い先生が今どんどん採用されていて、悩んでしまって分からなくなる。他の学年に相談しますが、その学年ではないですから詳しいところまで言えない。本当に教師が力を持たないと子どもは伸びていかないんです。ですから極端に言えば、40人のクラスだって力量のある先生がいらっしゃったら、その先生の負担はものすごく大きいと思いますが、力が伸びる立派な子どもが育ちます。20名のクラスでも力のない先生が教えたらかタガタとなります。ですから、やっぱり2人で相談したりしながら、力を付けていくということが大事ではないかなと思います。やっぱりクラス編成がある学校規模がいいのではないかと私は思います。</p>
委員	<p>中学校ですが、2クラスの中学校でもし人間関係が崩れたら、そういう課題を抱えている子が何人もいる状態の中に、またさらに重ねてということが起こるので、今実際市内の中学校で2クラスのところがいくつかあるんですが、2クラスの学級編成はとても悩むところです。ですから、3クラスでも少ないかなという気はしますが、最低3クラスはいるのかなというのが現状です。先程の授業時数の問題ですが、例えば資料にある中学校の国語22時間を1人で持った時に、これに道徳に学活に総合が付きます。それがあれば結局26時間。それで担任業務をしていると、子どものノートを見るなどいろんな事があるんですが、中学校は専門的な授業の準備ということも含めると、ほぼほぼ満タン状態です。小学校と同じ状態というのは言えるところです。ただ、技能系の教科の先生はもとの授業時数が少ないので、5教科の先生と技能系の教科の先生とのバランスがとてもアンバランスになるというのも現状としてあります。</p>
副委員長	<p>本当に先生はご多忙で、このまま疲弊していくのではないかなと思うぐらいです。子どももやはり40人クラスというのは多いのではないかなと思います。1年生35人も無理だと思う。だからクラスの人数を減らすか、1クラスに2人先生を付けるかとか、何かそういう工夫はもう不可欠だと思います。先生がもう疲れて、本当に自分の思う授業ができないとか、子ども自身も何かいったんちょっとクラスの雰囲気崩れると本当に一人の先生ではどうにもできない状態に簡単に陥るなというのを思いま</p>

<p>委員長</p>	<p>すので、ぜひ、そのところも、これは国に言わないといけないんですか。これは大事な問題なんです。これはどうにかならないんですか。</p> <p>規定がありますので、お金があれば市の予算で加配の先生を付けるところもあります。そのかわり、他の運営が圧迫される。市の施策です。ただ、人がいないと話になりません。</p>
<p>委員</p>	<p>先程のクラス替えについてですが、私自身F小学校でずっと3クラスの中で育ってきたんですが、子どもとして、クラス替えと席替えは楽しいイベントの一つであったというのは声を大にして言いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>先生方のお話を聞いて、保護者、児童生徒は先生を選べない。だから本当に言いにくいことを言われたと思いますが、やはり先生の質を上げていただくことを要望します。今日は重要な根本の話になると思います。適正な学校の規模ということは、痛切に感じます。</p>
<p>委員長</p>	<p>人材育成は、私は大学におりますので、私に言われているような気がします。若い人材をしっかり育てていきます。人材育成というのは、国の課題でもあります。</p> <p>それでは、次回の開催日を決めて終わりたいと思いますので、事務局から提案をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の会議ですが、9月25日金曜日の15時からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>9月25日金曜日の15時から17時ということでよろしいですか。（了承）</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。それでは次回は、9月25日金曜日の15時からお願いいたします。本日も長時間にわたり熱心なご議論どうもありがとうございました。本日いただきました貴重なご意見を次回の会議に向けて生かしていきたいと思っております。それではこれをもちまして、第3回柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会（柳川市教育の未来を考える会）を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>